

## 第10回定例岡山県教育委員会議事録

- 1 日 時 令和元年10月18日(金)  
開会13時30分 閉会14時41分
- 2 場 所 教育委員室
- 3 出席者
- |              |            |
|--------------|------------|
| 教育長          | 鍵本 芳明      |
| 委員(教育長職務代理者) | 田野 美佐      |
| 委員(教育長職務代理者) | 松田 欣也      |
| 委員           | 中島 義雄      |
| 委員           | 梶谷 俊介      |
| 委員           | 上地 玲子      |
| 教育次長         | 村木 智幸      |
| 教育次長         | 高見 英樹      |
| 教育政策課        | 課長 中本 正行   |
|              | 副課長 細川 誠   |
|              | 総括主幹 間野 良一 |
| 高校教育課        | 課長 藤岡 隆幸   |
| 生徒指導推進室      | 室長 大重 義法   |
- 4 傍聴の状況 0名
- 5 附議事項
- (1) 優良実践普及事業及び岡山県教育関係功労者表彰について
  - (2) 令和2年度県立高等学校第1学年生徒募集定員について
- 6 報告事項
- (1) 平成30年度児童生徒の問題行動等に関する調査結果について

## 7 議事の概要

### 開会

#### 非公開案件の採決

##### (教育長)

本日の議題の審議に入る前に、議題の公開の可否について決定したい。本日の議題のうち、附議事項（１）は、教育行政の公正を確保することから、教育委員会会議規則第１２条に基づき、非公開とするよう発議する。委員から、議題を非公開とする発議はないか。

##### (委員全員)

(特になし)

##### (教育長)

この発議は、討論を行わずにその可否を決定することとなっているので、直ちに採決に入る。

附議事項（１）は、非公開とすることに賛成の委員は挙手願う。

##### (委員全員)

挙 手

##### (教育長)

全会一致により、本案件は非公開とすることに決した。

#### 附議事項（２）令和２年度県立高等学校第１学年生徒募集定員について

##### ・高校教育課長から資料により一括説明

##### (委員)

募集定員の策定に当たって、昨年度入試実績における各学科の定員に対する充足率も加味しているのか。また、生徒の進路希望調査の際、学科の希望まで確認しているのか。

##### (高校教育課長)

募集定員を検討するに当たって、過去入試実績等を踏まえた上で行っている。また、５月１日時点の進学希望調査においては、大学科まで確認している。

##### (委員)

農業科の充足状況はどうか。

##### (高校教育課長)

農業科の一般入試の志願倍率については、１．２４倍である。

##### (委員)

全日制の市立高等学校の定員はどの程度か。

##### (高校教育課長)

岡山市立岡山後楽館高等学校が１６０名、玉野市立玉野商工高等学校も１６０名である。

##### (委員)

募集定員の策定に当たり、私立高等学校と協議は行っているのか。

**(高校教育課長)**

私立高等学校等の会議において、公私比率7：3の確認等の意見交換を行っている。

**(教育長)**

これより採決に入る。議第15号について、原案に賛成の委員は挙手願う。

**(委員全員)**

挙 手

**(教育長)**

全会一致により、議第15号は原案のとおり決した。

## 報告事項(1)平成30年度児童生徒の問題行動等に関する調査結果について

### ・生徒指導推進室長から一括説明

**(委員)**

調査結果から今後どのような取組を行っていくのか。

**(生徒指導推進室長)**

長期欠席及び不登校に対する取組をしっかり行う必要があると考えている。現在、スクールカウンセラーの全校配置やスクールソーシャルワーカーの派遣方法の工夫及び「岡山型 長期欠席・不登校対策スタンダード」に基づく取組の徹底等、「新たな不登校を生まない」をキーワードに対応を行っており、今回の調査結果では分かりづらいが、登校支援員の配置校では、不登校の出現率が全国平均を下回る等、一定の成果を挙げてきている。今後は、その効果の検証とともに、取組を行っているのにも関わらず、不登校になってしまっている等、困難なケースに対する対応も検討してまいりたい。

**(教育長)**

我々としても、長期欠席・不登校等の増加にはショックを受けた。今回の調査では、30日以上欠席に係る数値が計上されるため、対応に当たっては、その基準に該当する子どもをどれだけ減少させるのかという議論になりがちだが、30日を超えるか超えないかではない。子どもたちそれぞれの状態に違いがあるため、「岡山型 長期欠席・不登校スタンダード」においては7段階に分けて対応を図っているところであり、現在の状態から少しでも改善するように取り組むことが大事であると考えている。

**(委員)**

不登校児童・生徒数が増加している原因はどう捉えているのか。

**(生徒指導推進室長)**

昨年度から回答方法が変更になっており、その影響もあると思うが、複合的な要素が強いと考えている。家庭環境・友人関係等、子どもを取り巻く社会環境が従来に比べて複雑化していることも影響しているのではないかと。また、教育機会確保法に基づきフリースクールや教育センター等、学校以外で学べる場所の確保が進んでいることも影響していると考えている。

**(教育次長)**

増加しているのは事実であり、その理由等をしっかり把握・分析することが大事であると考えている。現在でも対策等を行っているところではあるが、分析の結果、

不足している部分があれば、しっかりと対応してまいりたい。その対応が、子どもたちへのメッセージにもなる。

**(委員)**

フリースクールや適応指導教室に通っている子どもは、今回の調査では長期欠席として扱われるということか。

**(生徒指導推進室長)**

本調査では、欠席が30日を超えればフリースクール等に通っていても長期欠席として計上されることになる。ただし、フリースクール等における指導状況等が、要件を満たすと校長が判断できる場合は、指導要録上、出席として扱うことができることになっている。

**(委員)**

子どもを取り巻く環境が多様化しており、従来の学校の対応では、その多様化した状況に対応しきれていないのではないかと。学校側の教育の仕組みを見直す必要があるのではないかと。

**(生徒指導推進室長)**

ご意見の内容については、全国的にも議論がなされていることは承知している。今後は、子どもの状況に応じた教育の場や方法等、きめ細かい教育をどれだけ提供できるかが大事になっていくと考えており、今年度、中学校において別室指導の拠点校を指定し、研究を行っているところである。そこで得たものを来年度以降、県内の学校に広げてまいりたい。

**(教育長)**

別室指導教室に担当教員を置くことは、現在の教員定数では中々難しいが、広島県等でも同様の取組を行っており、そういった学校とも連携し、体制づくりを研究してまいりたい。

**(委員)**

「【資料5】暴力行為の状況」に関連してだが、我慢ができない子どもが増えていくという話も聞いており、幼い時期から怒り等の感情と上手に付き合うための教育が必要になってきているのではないかと。

**(生徒指導推進室長)**

早期にそうした教育を行うことは大切だと考えている。学校においては、スクールカウンセラー等の専門家の協力による心理教育や、警察等の関係機関と連携した非行防止教室等を実施しており、引き続きその充実を図るよう学校を支援してまいりたい。

**(委員全員)**

了 承

以下、非公開のため省略。

閉会